内山美穂子 議員
（拓政会）

問 幕別清陵高校が更に魅力ある学びの場になるために

答 高校と協議しながら、生徒の育成につながる事業に取り組んでいく

問 幕別清陵高校は、道立幕別高校と私立江陵高校の再編統合が実現し、平成31年に新たな道立高校として開校した。

高校を取り巻く状況が厳しさを増す中、地元の期待を背負って誕生したこの学校が今後も選ばれる魅力ある高校となるために、町の積極的な関わりや支援が欠かせない。そこで以下について伺う。

(1)清陵高校に対する町の認識は。

(2)卒業生の進路状況は。

(3)遠方から通う生徒に住まいや食事の支援策は。

(4)通学手段の現状と今後の支援策は。

(5)魅力ある高校づくり補助金の活用内容と今後の方向性は。

(6)「地域連携マイプロジェクト」の充実に向けた支援体制は。

教育長

(1)町内中学校の中学生の有力な進路先であり、通学に伴う負担の少ない学びの場である。地域企業への優秀な人材供給元として、まちづくりに大きな役割を果たしている。

(2)卒業生の進路状況は、令和7年3月（第4期卒業生）は、国公立大学4人、私立大学9人、短期大学11人、看護学校・専門学校26人、公務員8人、その他民間就職等23人。第1期卒業生からこれまでの進路状況は、大学・短期大学28・4％、看護学校・専門学校37・4％、就職34・2％であり、全体の約三分の二が進学を選択している。

(3)教職員住宅の入居者が減少していることから、令和7年5月に幕別及び札内市街の住宅を順次廃止するとした。今後、廃止する教職員住宅の活用方法を検討し、高校側と協議しながら下宿利用の可能性も含め、本年中に方向性を見出したい。

(4)生徒の主な通学手段は、徒歩、自転車、保護者による送迎50・3％、バス28・9％、JR20・8％（令和7年度当初）。幕別清陵高校の支援事業において、高校と協議を重ねながら、力を入れて取り組みたい事業を優先的に進めており、通学支援も議論されたが、優先度が低く事業の対象外となった。今後も特色ある教育活動の充実を図り、地域の未来を担う生徒育成につながる事業に取り組んでいきたい。

(5)模擬試験や資格検定費、介護実習講師謝礼等への補助を「北海道幕別清陵高等学校教育振興会」を通して間接的に支援している。今後も高校の魅力を高める事業に対して支援を続けていく。

(6)現時点で地域連携コーディネーターについては、高校側が地域に依頼して取組を進めている。「地域連携マイプロジェクト」の充実に向けて高校側と協議しながら支援を続けていく。

問 札内駅駅舎の利活用について

答 利便性向上につながるようJRと協議していく

問 令和7年第1回定例会でJR北海道から10月1日より札内駅を無人化にする方針が示された旨の説明があった。無人化に伴い駅機能の低下や地域の衰退が懸念される。

町としても駅の活用をまちづくりの視点で捉え直すべきと考え、以下の点を伺う。

(1)防犯・安全対策について。

(2)駅舎の活用について、今後の取組は。

(3)多様な人材からアイディアを募りながら活用法を検討すべきでは。

町長

(1)札内駅の駅舎はJR北海道の施設であり、駅施設内の防犯・安全対策は施設管理者の判断に基づき行われるものであるが、駅舎内の全体を監視できるよう防犯カメラの増設について協議している。

(2)(3)札内駅はJR北海道の管理施設として存続するため、町独自で利活用を決定することはできないが、駅員常駐スペースの不要化を踏まえ、待合室の拡張や利便性向上に向け、JR北海道との協議を進めている。

町としては公共交通利用促進のため、乗客の利便性を重視した施設であるべきと考えており、利用者や商工会、建設業者など広く住民の意見を伺いながら、JR北海道との協議を重ねる予定である。